

来月の利上げに向けて、状況をチェック～米FOMC議事録、要人発言

2018年2月19日(月)

昨年3回の利上げを行った米国。
今年も3回を中心に、2～4回の利上げが期待されている状況です。
利上げのカギを握る米FRBの2大責務が
「雇用の最大化」と「物価のターゲット付近での安定」
雇用に関しては、ほぼ完全雇用状態にあるといわれており、
実質的には物価動向がカギを握っていると見られます。

そうした中、2月14日に発表された米消費者物価指数(1月)は、
予想を上回る前年比+2.1%の高水準。食品とエネルギーを除いたコアの前年比も+1.8%と
予想を上回る水準を記録しました。
米国のインフレターゲットの対象であるPCEデフレータは、
連鎖ウェイト方式を採用していることなどから、
一般的にCPIよりも低く出るため、
インフレターゲットである前年比2.0%はまだ遠いと見られる
(2月のPCEデフレータ発表は3月1日)とはいえ、
物価の堅調さが印象付けられたことで
利上げ期待が強まる展開となっています。

今週はそれほど目立った経済指標発表はありませんが
3月のFOMCに向けて注目したいイベントがあります。

一つは21日(日本時間22日)に発表される前回1月30日、31日開催分のFOMC議事録。

12月のFOMCで利上げを実施したこと、
FOMCメンバーによる経済成長、物価、金利などの予想(プロジェクト)が発表される回ではなかったことなどから
事前見通し通り金利据え置きを全会一致で決めた前回のFOMCですが、
次回3月のFOMCでの利上げが濃厚となる中、
タカ派的な姿勢が見られたかどうか、
議事録の内容に注目したいところです。

二つ目はFRB関係者の発言予定。
21日にハーカー・フィラデルフィア連銀総裁
22日にクオールズFRB副議長
ダドリーNY連銀総裁(FOMC副議長)とボスティック・アトランタ連銀総裁、
23日にウィリアムズSF連銀総裁が講演を予定しています。

このうち注目は今年のFOMCでの投票権を持つ
クオールズ副議長、ダドリー総裁、ボスティック総裁、ウィリアムズ総裁。

クオールズ副議長は昨年10月に就任。
銀行監督が担当で、金融政策についての言及が少なかったですが
今回の講演テーマはグローバルエコノミーであり、
米国経済についての言及もありそうで注目したいところ。
なお、国際通貨研究所の招きで、東京で講演を行うもので
午後2時15分からと、東京時間で発言が出てくる見込み。

ダドリー総裁、ウィリアムズ総裁は、昨年から段階的な利上げに前向きで
比較的タカ派的なコメントが見られますが、本来はハト派といわれていたメンバー。
ボスティック総裁は中立派と見られるメンバーです。

こうしたタカ派メンバーではない
(今年の投票メンバーで明らかにタカ派なのはメスター・クリーブランド連銀総裁とバーキン・リッチモンド連銀総裁)
参加メンバーの姿勢が、積極的な利上げに前向きとなると
3月の利上げはもちろん、今年この後の利上げ期待にもつながり、
ドル買いが進む可能性があります。